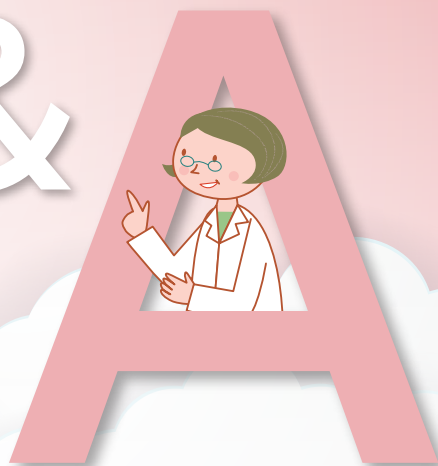


ゼプリオン[®]による 治療について

ゼプリオン[®]による治療Q&A



&



ゼプリオン[®]は、4週間に1回*注射をするお薬です。

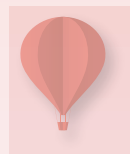
*2回目は最初の投与から1週間後、3回目からは4週間ごとになります。

※ゼプリオン[®]投与時の注意事項や副作用等の詳細については、小冊子「ゼプリオン[®]による治療を始めるあなたとあなたを支える皆様へ」をご参照ください。

ゼプリオン[®]による 治療Q&A

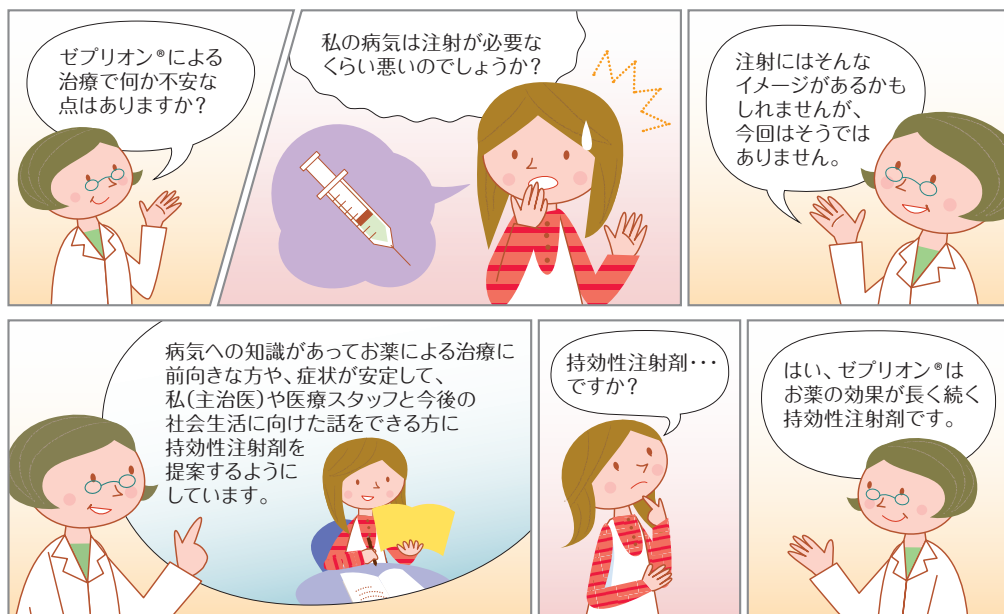
もくじ

- Q1** 持効性注射剤って何ですか？
- Q2** 注射の痛みを軽くするコツはありますか？
- Q3** ゼプリオン[®]による治療はどのように進めるのですか？
- Q4** 注射をするのが遅れた場合はどうすればよいのでしょうか？
- Q5** ゼプリオン[®]ではなく、飲み薬のままでもよいのでしょうか？
- Q6** ゼプリオン[®]での治療はいつまで続けられればよいのでしょうか？



ゼプリオン[®]投与中の副作用について

Q1 持効性注射剤って何ですか？



ゼプリオン®は、4週間に1回投与*する持効性注射剤です。

*2回目は最初の投与から1週間後、3回目からは4週間ごとになります。

薬のしくみと効果について

ゼプリオン®は投与後、体の中に薬(有効活性成分:パリペリドン)がとどまり、4週にわたって効果を発揮する持効性注射剤です。4週に1回の投与を受けて、薬による治療を続けていきます※1。



※1 通常、成人にはパリペリドンとして初回 150mg、1週後に2回目 100mgを三角筋内に投与する。その後は4週に1回、パリペリドンとして75mgを三角筋又は臀部筋内に投与する。なお、患者の症状及び忍容性に応じて、パリペリドンとして25mgから150mgの範囲で適宜増減するが、増量は1回あたりパリペリドンとして50mgを超えないこと。

Q2 注射の痛みを軽くするコツはありますか？



ゼプリオン®を投与する場所は、肩(三角筋)とお尻(臀部筋)のどちらかを選択することができます*。

*最初と2回目の投与は肩(三角筋)、3回目以降は選択できます。

ゼプリオン®は1回目と2回目(1週間後)に肩(三角筋)へ注射したあと、4週間に1回の間隔で肩(三角筋)またはお尻(臀部筋)に投与します。

1回目と2回目の注射

肩



3回目以降の注射

肩

または

お尻

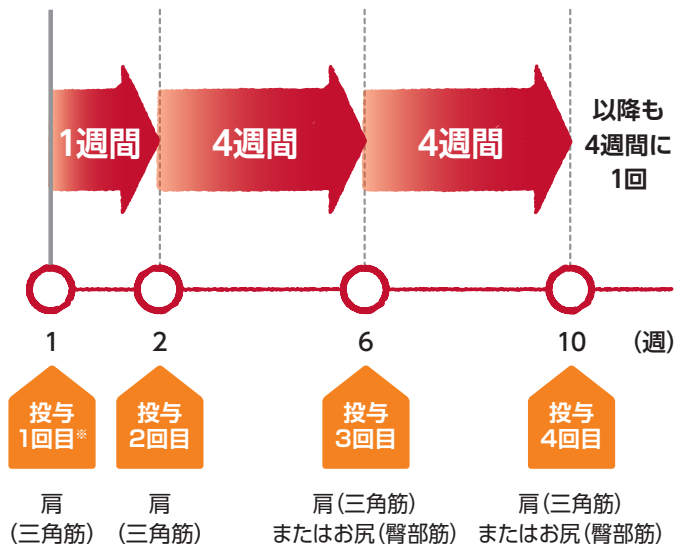


Q3 ゼプリオン®による治療はどのように進めるのですか？

A ゼプリオン®は、1回目と2回目に肩へ注射したあと、4週間に1回の間隔で肩またはお尻に投与します。



ゼプリオン®の投与スケジュール



※ 過去に経口パリペリドンまたはリスペリドンでの治療経験がない場合には、パリペリドンまたはリスペリドンの飲み薬を服用して安全性を確認します。主治医の指示に従ってください。

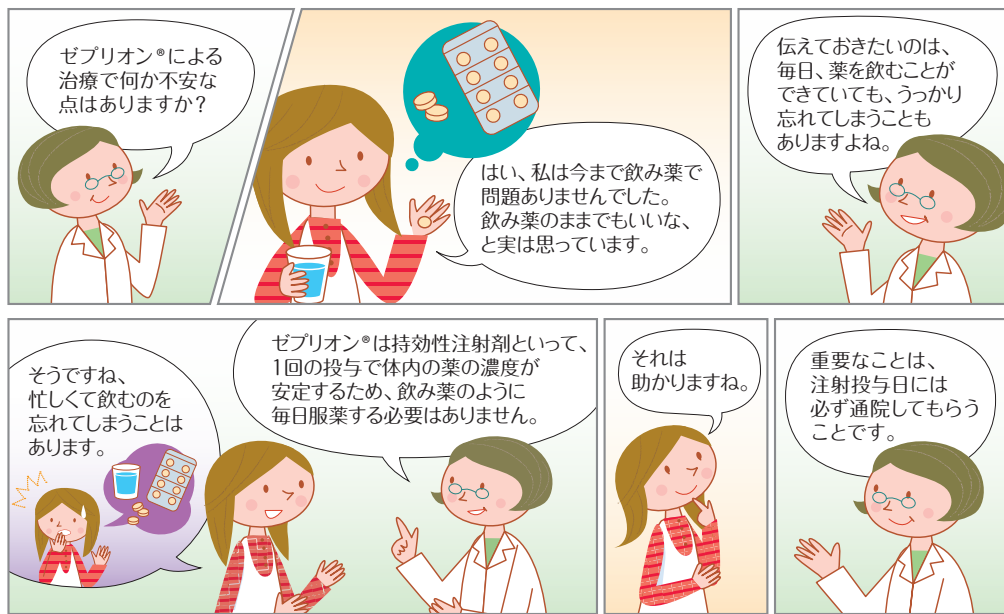
Q4 注射をするのが遅れた場合はどうすればよいのでしょうか？

A 通院予定日に医療機関に行くことができなかった場合、できるだけ早く医療機関を受診してください。

※投与が遅れた場合の投与量に関する詳細は、主治医に確認してください。



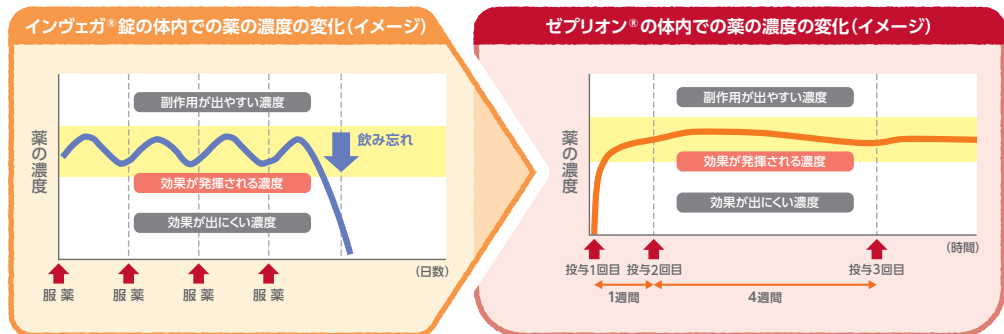
Q5 ゼプリオン®ではなく、飲み薬のままだでもよいでしょうか？



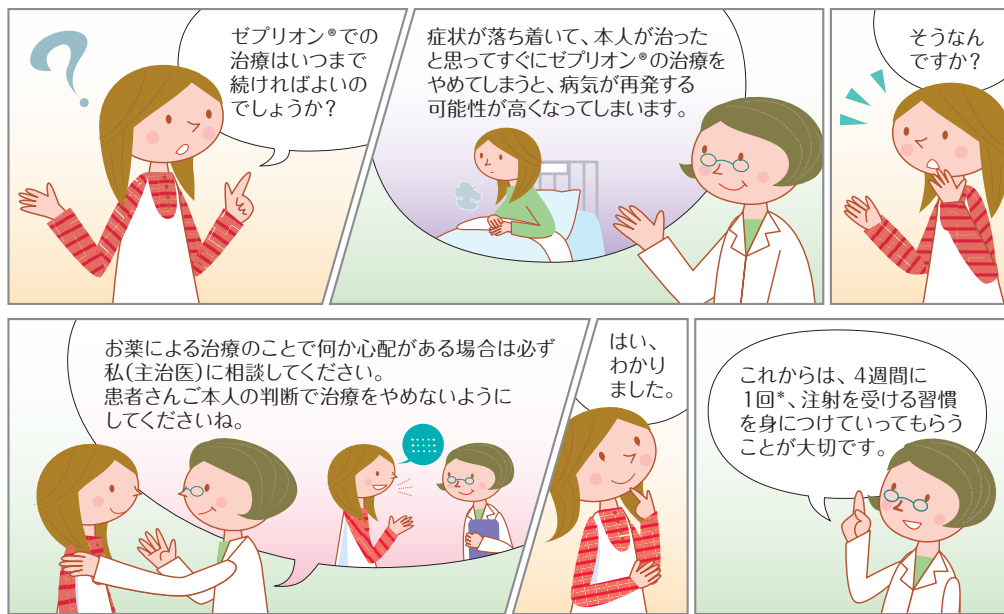
ゼプリオン®は4週間にわたって効果が発揮される濃度が続きます。

安定して持続させるために定期的(4週間ごと)に受診しましょう。

参考 インヴェガ®錠からゼプリオン®へ変更する場合の体内での薬の濃度変化のイメージ



Q6 ゼプリオン®での治療はいつまで続ければよいのでしょうか？



4週間に1回の注射*を受ける習慣を身につけて、未来に向けた次の一歩を踏み出しましょう。

*2回目は最初の投与から1週間後、3回目からは4週間ごとになります。

未来に向けて、やってみたいことはありますか？ あなたが今後やってみたいことを実現するために、医療スタッフと相談しながら、あなた自身の目標を設定してみましょう。

やってみたいこと(イメージ)



スポーツ



勉強



仕事



料理



旅行



ゼプリオン® 投与中の副作用について

考えられる副作用

- ▶ 注射を打ったところが痛む、硬くなる
- ▶ 興奮しやすい、敵意をもつなどの精神症状の悪化
- ▶ 眠れない、眠気
- ▶ 足がむずむずする、じっと座ってられない

特に気をつけていただきたい副作用



- ▶ どうき 動悸
- ▶ 胸の痛み
- ▶ 胸部の不快感 など



- ▶ 急な高熱
- ▶ 発汗
- ▶ 唾液が増える など



- ▶ 急にお腹が張る
- ▶ 便秘とそれに続く腹痛、吐き気 など

- ▶ 短期間での体重増加
- ▶ のどが渇く
- ▶ 発熱、発疹
- ▶ 脱力感、冷や汗
- ▶ 手足のしびれ
- ▶ 息切れ、むくみ
- ▶ 頭痛やめまい
- ▶ 不安感、ちくちくした感じ など

※ 詳しくは、「ゼプリオン®による治療を始めるあなたとあなたを支える皆様へ」をご参照ください。

症状に応じて下記のような対応があります。

対症療法 | 症状を抑えたり和らげたりするための薬を使います。

薬の調整 | ゼプリオン®の量を減らす・中止する・違う薬に変更することで、症状を和らげたりなくしたりします。

環境調整 | 食生活や生活習慣を改善することで、症状を改善します。

これ以外でも、何かいつもと違う症状が現れたら、できるだけ早めに
医師または薬剤師にお伝えください。

ヤンセンファーマ株式会社 / 住友ファーマ株式会社